

中施策評価書

作成日 令和05年 4月 27日

中施策事業名	医療介護連携推進事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一

①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する
③中施策	市民が安心できる地域の医療・福祉をつくる民間の活動を支援する
④中施策事業の対象	医療介護関係機関・従事者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	連携がスムーズになされ、質の高いケアを提供できている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護連携推進事業に関すること ・いきいき笑顔ネットワークに関すること ・多職種人材育成事業に関すること ・多職種合同ケアカンファレンスに関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
ICTいきいき笑顔 ネットワークにより 多種職連携のもと 支援される高齢者 の人数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	590	600	800	1,000	1,100
	実績値	1,123	1,139			
単位	人					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		11,445千円	11,445千円		
人件費	a 事業費合計	11,445千円	11,445千円	12,111千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		9,241千円	9,241千円	9,737千円	
③ コスト(①-②)		2,204千円	2,204千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		32円	32円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

<p>上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析</p>	<p>総合評価：A</p> <p>「医療介護サポートセンターかけはし」を藤田医科大学、東郷町との3者協定にて設置。退院時の介護医療連携の橋渡しを行うサポート事業を実施し、患者や家族に対する精神的な負担軽減に寄与している。また、多職種人材育成事業および多職種合同ケアカンファレンスを実施することで、医療介護に従事する人材の専門性の向上および連携の強化を図ることができている。また、「いきいき笑顔ネットワーク」の評価指標についても目標を達成しており、連携ツールとしての活用が定着している。</p>
------------------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	「いきいき笑顔ネットワーク」等、医療介護推進事業における高齢者分野での取り組みを、障がい福祉や子育て支援、生活困窮者支援等の他分野にも展開し、多職種間の連携強化に向け関係各課と検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	「いきいき笑顔ネットワーク」や「多職種合同ケアカンファレンス」への医療従事者の参加が減っているため、関係団体との意見交換など情報共有を通じ状況の改善策を検討していきたい。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 22日

中施策事業名	敬老事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる
④中施策事業の対象	数え88歳、99歳、100歳以上の市民 70歳以上の独居者への年末お見舞訪問
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	在宅で過ごしている高齢者が増えている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・敬老事業の祝金配布事業 ・独居高齢者年末見舞訪問

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
敬老祝訪問数		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	310	320	350	400	420
		実績値	469	435			
単位	人						
		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0	0			
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		2,520千円	2,755千円		
a	事業費合計	2,520千円	2,755千円	3,440千円	
	人件費	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		1千円	1千円	1千円	
③ コスト(①-②)		2,519千円	2,754千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		37円	40円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：A</p> <p>高齢者の増加は今後も予想されることから、民生委員や老人クラブ等と連携して高齢者の孤立化防止や見守りを実施している。</p> <p>敬老事業の祝い金配布および独居高齢者の年末見舞い訪問は民生委員と連携し実施しており、見守りの必要性が高い独居高齢者の生活状況を民生委員が確認・把握する機会となっている。</p> <p>令和4年度実績 祝い金配布435人 年末見舞1,901人</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	引き続き民生委員等と連携し、地域での見守りを継続する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	高齢者増加に伴い、事業実施方法を再検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 22日

中施策事業名	介護予防生活支援事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	要支援1, 2及び事業対象者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	重症化が予防できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防日常生活支援総合事業 ・介護予防ケアマネジメントについて 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
要介護認定率		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	14.4	17.6	18.3	19.3	19.6
		実績値	15.8	16.1			
単位	%						
		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0	0			
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			74,534千円	75,617千円	
人件費	a 事業費合計		74,534千円	75,617千円	99,063千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			65,217千円	66,164千円	86,680千円
③ コスト(①-②)			9,317千円	9,453千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			135円	137円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：B</p> <p>評価指標である要介護認定率は16.1%となり、前年度より微増しているが目標値より大幅に少ない結果になった。65歳～74歳人口はR4年度末で7,731人（前年比586人減）75歳以上人口は10,177人（前年比506人増）。R4年度末の65歳以上の被保険者数は17,908人（前年比-80人）であり、75歳以上の後期高齢者の割合が増加。要支援者はR4年度末で766名（前年比12人減）要介護者は2114名（同49人増）年齢層上昇により想定された要介護認定率より抑えられており、重症化防止に係る事業の効果があったと言える。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<p>要介護・要支援認定者数および重症化率の推移について把握し、効果的な介護予防・重症化防止の取組を検討する。</p> <p>令和4年度は前年に比べ介護予防訪問介護・訪問リハビリの事業費が増加している。感染症流行により通所より訪問を選択したケースが増えているものとみられ、今後も状況に合った最適な支援方法を検討する。</p>	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<p>定期的にモニタリングを行い、効果的な介護予防・重症化防止の取組を展開する。</p>	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 22日

中施策事業名	包括支援事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる
④中施策事業の対象	65歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	日常生活に係る様々な相談ができる場所を知っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括支援センター運営支援に関すること ・ 総合相談支援業務に関すること ・ 高齢者虐待に関すること ・ 成年後見制度に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
地域包括支援センターの相談件数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	1,900	5,800	6,000	6,200	6,400
	実績値	5,699	7,089			
単位	件					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		95,476千円	90,718千円		
人件費	a 事業費合計	95,476千円	90,718千円	108,927千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		77,096千円	73,254千円	87,958千円	
③ コスト(①-②)		18,380千円	17,464千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		267円	254円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：A</p> <p>地域包括支援センターの相談件数は年々増加しており、高齢者に関する身近な相談窓口として認識されていると考えられる。単身高齢者世帯および高齢者のみ世帯の増加、家族関係の希薄化により対応困難な事例が増えており、総合相談窓口としてより一層の機能強化が必要である。毎月開催している多職種合同ケアカンファレンスで包括支援センターの担当ケース事例を取り上げ、多職種の視点と地域課題を共有することで、ケアマネジメントの質および職員の資質向上につなげている。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	第8期介護保険事業計画（令和6年度～8年度）の策定にあたり把握できた高齢者の課題を整理・検討し、地域包括支援センターの運営方針を見直す。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	今後要支援・要介護者が急激に増加すると予想されるため、受託法人と連携し人員体制の強化および人材育成の取り組みを進める。また重層的支援体制整備事業下での地域包括支援センターの役割を踏まえ、さらなる充実を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 地域包括支援センター事業	内容、理由、時期等 令和7年度にかけて段階的に委託料総額を拡大し、人員拡充を図る。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 22日

中施策事業名	認知症総合推進事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一
①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている		
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる		
③中施策	高齢者が孤立せず安心して生活できる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	認知症になっても安心して生活できている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症初期集中支援チーム ・ 認知症地域支援推進員の配置 ・ 認知症キャラバンメイトの養成 ・ 認知症サポーターの養成 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
市内の認知症サポーターの数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	8,000	8,500	9,500	10,500	11,000
	実績値	9,112	10,363			
単位	人					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		19,318千円	19,731千円		
人件費	a 事業費合計	19,318千円	19,731千円	20,257千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		15,599千円	15,932千円	16,357千円	
③ コスト(①-②)		3,719千円	3,799千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		54円	55円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：B</p> <p>令和4年度中に認知症サポーター養成累計1万人を達成。市民の認知症理解に対する普及啓発を進めることができた。高齢化の進行により認知症高齢者の増加が見込まれるため、引き続き認知症対策事業の取組を進めていく。</p> <p>令和4年度の講座受講者数 1,251人</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・増加する「ひとり歩き（徘徊）」高齢者に対応できるよう、家族やケアマネージャーに対応策を周知教育する機会を設ける。 ・認知症家族サロン、本人ミーティング実施による家族支援、本人支援の充実を図る。 	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	認知症初期集中支援チームの支援実施方法の見直しを検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 22日

中施策事業名	一般介護予防事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する
④中施策事業の対象	65歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	要介護状態になることを防いでいる
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域介護予防活動支援に関すること ・地域リハビリテーション活動支援事業 ・一般介護予防事業に関すること ・一般介護予防事業評価に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
要介護認定率		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	14.4	17.6	18.3	19.3	19.6
		実績値	15.8	16.1			
単位	%						
		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0	0			
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		35,634千円	40,141千円		
人件費	a 事業費合計	35,634千円	40,141千円	47,706千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		31,179千円	35,123千円	41,742千円	
③ コスト(①-②)		4,455千円	5,018千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		65円	73円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：B</p> <p>身近な地区の集会場等で集い運動を行う「まちかど運動教室」（市内23会場にて開催、R4年度延べ参加者数15,356人）をはじめ、介護予防に資する様々な事業を展開している。新型コロナウイルスのリスクを排除しながら、屋外で手軽に行えるウォーキングの推進など様々な取り組みを行ってきた。運動教室の集団人数を減らすため、教室を2部に分け行うなどの対策を取ったため、委託料などのコストが増加している。</p> <p>成果指標の目標は達成し、計画以上の進捗であった。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<p>新型コロナ禍を経て取り組みが縮小されるなどの影響がどの程度出ているか、現状・課題を把握し、改善策を検討する。</p>	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<ul style="list-style-type: none"> ・70代、80代以上、それぞれの年齢層に応じた介護予防の取組を検討し実施する。 	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 7月 21日

中施策事業名	高齢者生きがいづくり事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する
④中施策事業の対象	60歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	老人クラブの活動が活発になり、人々が趣味を楽しんでいる
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・老人憩いの家に関すること ・老人生きがい推進事業委託（老人クラブ） ・老人クラブ連合会補助金に関すること ・東部知多温水プール利用助成事業に関すること・食生活改善推進事業

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
老人クラブ参加者数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	4,750	4,750	4,750	4,750	4,750
	実績値	3,718	3,255			
単位	人					
地域サロン登録数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	60	63	65	68
	実績値	56	58			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		17,609千円	41,340千円		
人件費	a 事業費合計	17,609千円	41,340千円	3,435千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		1,643千円	1,310千円	1,408千円	
③ コスト(①-②)		15,966千円	40,030千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		232円	582円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：B</p> <p>老人クラブの参加者数の減少傾向が続いている。新しい加入が減っており、加入後に求められる事務仕事への負担感や、60代・70代はまだまだ元気で加入に抵抗感を持つ人が多いことが原因と考えられる。</p> <p>老人憩いの家の地域への譲渡が令和4年度におおむね完了。(土地の権利関係整理が未解決である2か所を除く)令和4年度は老人憩いの家解体工事35,068千円分を含むため事業費が一時的に増大している。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	老人クラブの加入減少についての現状分析及び老人クラブの活性化に向けての課題把握を引き続き行いつつ、高齢者の地域での活動参加を促す施策を検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	老人クラブに限らない多様な高齢者の活動・活躍の場の確保と拡大を図る。運営を支える担い手やボランティアの確保するための方策を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 7月 21日

中施策事業名	老人福祉センター運営事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一

①めざすまちの姿	12 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている
②大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
③中施策	高齢者が趣味や仕事などさまざまな場面でいきいきと活躍できるよう支援する
④中施策事業の対象	60歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	趣味や健康づくりで集まる場所を知っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味講座 ・趣味教室 ・老人クラブサークル ・趣味サークル等

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
老人福祉センター 利用者数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	41,500	42,000	42,000	42,000	42,000
	実績値	18,830	21,433			
単位	人					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		10,650千円	10,768千円		
人件費	a 事業費合計	10,650千円	10,768千円	10,932千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		10,650千円	10,768千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		155円	156円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：B</p> <p>老人福祉センター運営は感染症対策に努めつつ、ほぼ通常通りの運営に戻っている。利用者数は前年度に比べ増加しているが、利用者は限定的であり、利用しやすい施設になるよう利活用法の再検討を行う必要がある。</p> <p>また令和6年度の指定管理者更新に向け、福祉体育館と一体的な維持管理を行い経費削減と施設の有効活用を推進するため、サウンディング調査を実施した。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和6年度から指定管理者が更新される予定で、令和5年度に次期指定管理者の選定が行われる。老人福祉センターの空き時間帯（土日夜間）の活用や福祉体育館内の他施設との一体的運営などで、高齢者の活動拠点としての機能を保ちつつ、施設のさらなる利活用について検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	高齢者の活動拠点としての機能を保ちつつ、複合施設の利点を生かした活動を指定管理者と連携し実施する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名 老人福祉センター内の浴室について	内容、理由、時期等 利用者が限定的であり、老朽化が進んでいた浴室を、令和5年度内に廃止する。広く高齢者が参加できる介護予防事業のさらなる充実を図るため。

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 22日

中施策事業名	高齢者在宅サービス事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる
④中施策事業の対象	高齢者及びその家族
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	サービスの利用で家族の負担が減っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外出支援事業 ・ 理髪サービス事業 ・ 寝具クリーニング事業 ・ 寝たきり老人介護手当 ・ 緊急電話設置

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
外出支援の利用数		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	4,350	4,350	4,350	4,350	4,350
		実績値	3,441	3,592			
単位	回						
		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0	0			
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			4,194千円	5,236千円	
人件費	a 事業費合計		4,194千円	5,236千円	6,036千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			4,194千円	5,236千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			61円	76円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：B</p> <p>前年度に比べ、住宅改修費補助事業や在宅福祉推進事業（緊急電話設置事業）、高齢者外出支援事業をはじめ、多数の事業において事業費が増加している。</p> <p>高齢者数と要介護高齢者の増加に伴い在宅支援を要する人が増えており、今後もその傾向は続くと考えられる。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<p>必要な人に支援事業の情報が届くよう、引き続き周知に努める。</p> <p>公共交通（ひまわりバス、チョイソコ）の方向性を踏まえ、必要な人に必要な外出支援が確保できる方策を検討する。</p>	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<p>公共交通（ひまわりバス、チョイソコ）の方向性を踏まえ、必要な人に必要な外出支援が確保できる方策を検討する。</p>	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 7月 21日

中施策事業名	生活支援体制整備事業	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	身近な地域で助け合える環境をつくる
④中施策事業の対象	65歳以上の市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	高齢期の生活に必要なサービスを知っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターに関すること 住民主体の生活支援体制に関すること 高齢者外出支援事業に関すること 在宅福祉推進活動委託に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
生活支援訪問サービス実利用者数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	65	70	75	75	75
	実績値	71	72			
単位	人					
ちやっと実利用者	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	80	90	290	300	300
	実績値	270	280			
単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		15,020千円	15,814千円		
a	事業費合計	15,020千円	15,814千円	16,370千円	
	人件費	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		12,127千円	12,768千円	13,207千円	
③ コスト(①-②)		2,893千円	3,046千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		42円	44円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：A</p> <p>令和4年度からは重層的支援体制整備事業の実施により、同事業の元で実施中。おたがいさまセンター事業は5周年を迎え、利用者・サポーター登録数とも増加を続け、ゴミ出しや草刈りなど介護保険サービスで対応できないちょっとした困りごとに対応している。令和4年5月には事務室を共生交流プラザカラット内に移設。カラットで開催されるイベントにも参加し、活動の周知を図った。また市とちょっとコーディネーター毎月会議を行い、支援ニーズの把握および情報共有を行っている。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	重層的支援体制整備事業下での「生活支援コーディネーター」の役割を整理し、共生社会課と課題を共有し役割分担しながら、高齢者以外を含む多世代を包括した地域づくりの取組を検討・実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	高齢者のみならず、障がい者、子ども等を含めた重層的な支援体制の整備の在り方を踏まえ、生活支援体制整備事業の役割を再検討する。利用が増えているおたがいさまセンター事業について、利用増と高齢者以外への支援拡大に対応するため、コーディネーターを増員し拡充する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 おたがいさまセンター事業	内容、理由、時期等 令和6年度からコーディネーターを増員し、利用増と対象拡大に対応する。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 7月 21日

中施策事業名	シルバー人材センター関係事務	部課名	健康福祉部・長寿課
		作成者	伊神 竜一
①めざすまちの姿	33 高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている		
②大施策	高齢者、障がい者の活躍の機会や場を増やし、収入と生きがいを得ることができる環境をつくる		
③中施策	高齢者、障がい者の活躍の機会や場をつくる		
④中施策事業の対象	60歳以上の市民		
⑤中施策事業の意図 <small>(対象をどのようにしたいですか)</small>	仕事をし、生き生きとした高齢者が増えている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	シルバー人材センターに関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
受注件数		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450
		実績値	1,706	1,613			
単位	件						
		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0	0			
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			26,708千円	26,708千円	
人件費	a 事業費合計		26,708千円	26,708千円	26,709千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 <small>(事業費に含む)</small>	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			26,708千円	26,708千円	
市民一人あたりコスト <small>(③/市の人口(評価対象年度末時点))</small>			388円	388円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価：B</p> <p>シルバー人材センターの受注件数は減少傾向にあり、会員登録数も減少している。会員の減少は、定年延長など労働環境の変化による影響や、会員の年齢構成の変化（高齢化）が影響しているものと想定される。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	上記の想定に基づき、働きたい人（登録者）が実施可能な仕事の開拓を図っていく。受注する工夫が必要なことを踏まえ、本市の他事業や他自治体の先行事例等を参考に改善策を検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	上記の検討を踏まえ、シルバー人材センターをはじめ関係機関との調整等を行い、改善に向け取り組む。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等